

## 準高冷地夏秋どり白ネギの適品種 ‘MKS-N43’

### 1 新しい品種の内容

#### (1) 背景・目的

鳥取県の準高冷地の白ネギ栽培では、8月上旬ごろからの出荷が行われる。栽培期間の短い夏秋どりでは肥大性に優れる夏扇パワー’（サカタのタネ）が主に栽培されているが、ほ場での軟腐病等の土壤壌病害や襟割れの発生など、在圃性に難点があり、代替品種の検索が求められていた。そこで、品種比較試験を実施した結果、‘MKS-N43’（ヴィルモランみかど）を有望品種として選定したので紹介する。

#### (2) 品種 ‘MKS-N43’ の要約

- 1) 早期肥大性は‘夏扇パワー’と同等程度に優れる。
- 2) 夏季の在圃期間が長くなっても上物収穫率が高く、在圃性に優れる。
- 3) 下図1のような作型に適する。

作型	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
盆前（8月）どり		○								▲	▲												□	□	□								
9月どり				○						▲	▲															□	□	□					
秋冬どり					○						▲	▲																	□	□	□		

○播種 ▲定植 □収穫適期

図1 準高冷地における‘MKS-N43’の適作型

### 2 試験成果の概要

#### (1) 品種比較試験

##### 1) 早期肥大性と在圃性

2019年から2023年までの5年間、盆前（8月）どり、9月どり、秋冬どりの3作型で‘MKS-N43’を含む合計28品種を比較した。‘MKS-N43’は‘夏扇パワー’と比較して、早期肥大性は同等か僅かに劣る程度だが、いずれの作型でも慣行品種と概ね同等かそれ以上の上物収量であった。盆前どり作型では収穫開始から約20日間に腐敗や襟割れが少なく、収量の低下が小さい傾向だった（表1）。

##### 2) 品種特性

襟の締りが良く、葉は立性。首の伸びは‘夏扇パワー’と比較して同等かやや小さい。ナメ（ネギ葉身内部の粘物質の通称）の量が少なく、作業性に優れると考えられた（表2）。一方、葉長は‘夏扇パワー’と同等以上に長い（データ省略）。

### 3) 適する収穫期

早期肥大性に優れるため、8月上旬からの出荷が可能である。冬作型でも収量が高く、有望と考えられるが、降霜後に外葉の折れが顕著に見られる（達観）など、耐寒性は弱い可能性があるため、10月末頃までの収穫を目指す作型での利用を目安とする。

表1 収量調査

作型	調査期間	品種	上物 本数 (本/a)	上物 収穫率 (%)	上物 収量 (kg/a)	平均 一本重 (g)	3L+2L +L率 (%)	ケース 数 (箱/a)
盆前どり (1回目)	2019~2022	夏扇パワー（慣行）	2,825	93.3	389.5	138.3	90.1	108.9
		MKS-N43	2,824	93.3	365.8	129.9	80.6	104.7
盆前どり (2回目)	2019~2022	夏扇パワー（慣行）	2,197	72.6	293.4	134.9	88.9	81.6
		MKS-N43	2,455	81.1	328.6	134.6	84.0	92.8
9月どり	2019~2022	夏扇パワー（慣行）	3,030	83.3	383.3	128.3	68.3	106.1
		夏扇4号（慣行）	2,677	73.6	277.6	106.5	56.9	81.1
		MKS-N43	3,111	85.6	348.5	114.5	58.3	101.9
秋冬どり	2020~2023	夏扇4号（慣行）	2,879	79.2	420.6	138.5	80.1	115.5
		関羽一本太（慣行）	2,674	73.5	385.7	148.9	81.1	107.5
		MKS-N43	3,386	93.1	453.4	132.1	78.7	125.5

※盆前どりは概ね20日後に2回目調査を実施。

※栽植本数は、盆前どりは33.3本/m、9月・秋冬どりは40本/m。畝間はいずれも1.1m。

※2023年の盆前どり・8月どりは圃場の滞水による生育不良のため集計から除外した。

表2 品種特性

品種	首の締り	立性	葉色	首の伸び	ナメの多さ
夏扇パワー（慣行）	並	並	並	大	多
夏扇4号（慣行）	並	並	並	やや大	並
関羽一本太（慣行）	やや良	並	濃	小	並
MKS-N43	良	立	やや濃	やや大	少

※2019~2023年の達観調査をもとに集計

※ナメの多さは2022年、2023年のみ実施

## 3 普及の対象及び注意事項

### (1) 普及の対象地域

県下全域の準高冷地

### (2) 注意事項

- 1) 葉長が長いいため、台風等の風害や降霜、雪害には注意を要する。
- 2) 低温期には肥大が進みにくくなる傾向があるため、8月~10月収穫作型での利用が望ましい。
- 3) 執筆時点では番号名称であるが、2024年の夏~秋ごろの種子供給が予定されており、供給開始に合わせて命名される見込み。

## 4 試験担当者

（ 日南試験地 研究員 前田 真吾 ）  
（ 試験地長 小谷 和宏 ）